

着々と建設が進む新名神高速道路の一現場。
立ちのかる岩盤を火薬で砕き、
ひたすら山を掘削していくトンネル工事だ。
現場を取り仕切るプロフェッショナルを訪ねた。



大成建設株式会社 工事主任

勝田つかささん

京都府出身、2009年大成建設株式会社入社。

名称・新名神高速道路原工事

工事場所・大阪府高槻市大字原

工事期間・2011年4月～2015年4月

工事概要・総延長3010m、トンネル延長576m、土工延長1742m、橋梁延長600m

夢は所長。現場にかける情熱は誰にも負けない。

橋に「かっこいい」と胸躍らせた少女時代

薄暗いトンネルの中で山の掘削面を見つめる真剣な目。工事が計画通り進んでいるか。作業員の安全に問題はないか―ここは新名神高速道路・神峰山トンネル（高槻市大字原）の掘削現場だ。陣頭指揮をとるのは工事主任の勝田つかささん。入社6年目で現場一筋、将来を嘱望される若き技術者である。

「何かをつくるのが大好きで、大きな橋を見て『かっこいい！』とわくわくするような女子でした」。スケールの大きなものづくりにあこがれた。トンネル工事の主任に抜擢されたときは重いプレッシャーを感じた。トン

掘って初めて土の顔が出てくる。

ネルの施工は規模も工費も危険も大きい。特に神峰山トンネルは柔らかい土砂が多い上に、山の表面から浅い位置にあり（土被りが浅い）、上下線の距離が近いなど、難工事の条件がそろっている。

入社して最初の現場でトンネルの仕上げ工事に携わって以来、ずっと「トンネルを掘らせてください」と会社に訴え続けてきた。まさに念願かなったのトンネル工事だった。「協力会社の方々は全員男性で、私よりずっと年上の方も。厳しく指摘され、辛いこともあります。私が、やりがいもそれだけ大きいんです」と屈



見えないドキドキ感がたまらない

「トンネル掘削は山の地盤が相手。土って日々表情が変わるんです。掘って初めて顔が出てくるから、見えないドキドキ感があつて楽しいんです（笑）。今はただ、夢中で掘って掘って掘りまくっています」。

「勝田には将来、所長になってほしい」と言うのは、勝田さんを工事主任に指名した川田所長だ。工事事務所の「所長」といえば、単なる「現場の長ではなく、そこにかかわる関係者すべてを統括する、いわば組織のリーダーである。「情熱ある若者にチャレンジさせるのがわれわれの使命。当社には女性所長がまだ二人もいません。女性だけでなく土木に携わる若者自体が減っている今、業界に二石を投じたい」と言う。

彼女は（社）土木技術者女性の会にも属し、土木業界の環境づくりや、女性土木技術者の社会的評価向上を目指す活動に積極的に参加している。

「私自身がこうしてチャレンジさせてもらったように、若い部下たちにチャレンジの場を与えられるような所長になりたい」と目を輝かせる勝田さんは、今日も山の地盤を見つめ、トンネルを掘り続ける。